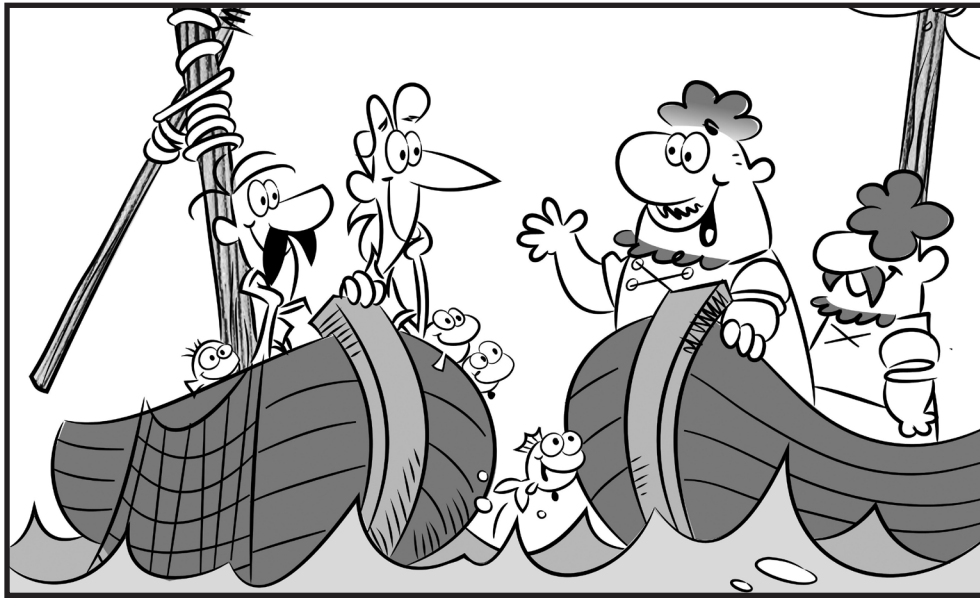


でしたち 弟子達は、なぜ イエス様について行ったのか？

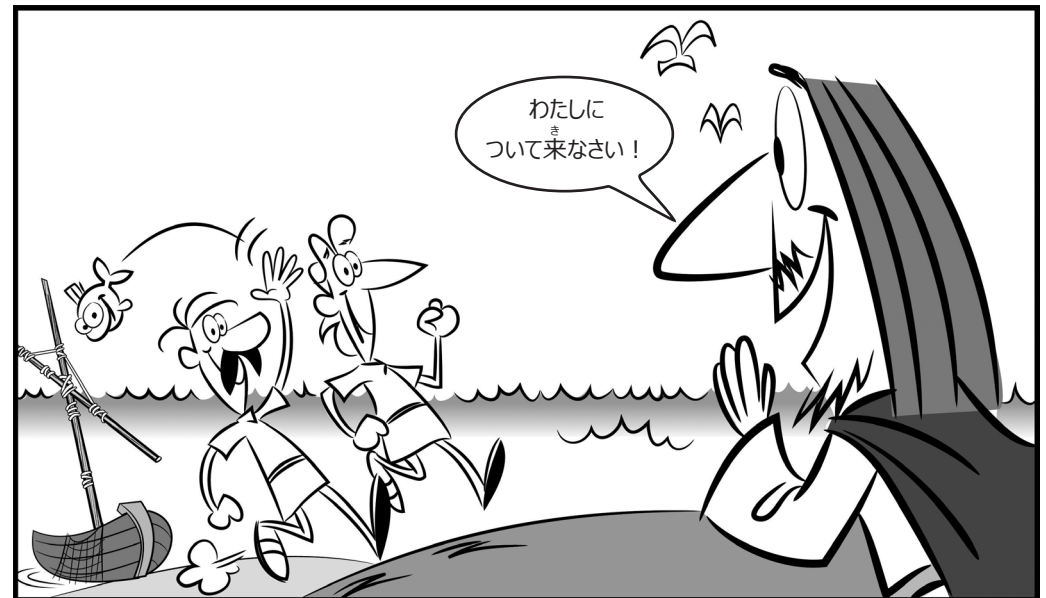
イエス様に 出会う 前、アンデレは、バプテスマの ヨハネの 弟子の 一人だった。ヨハネが イエス様に バプテスマを 授け、彼こそが 神の 小羊だ と 言う、アンデレは イエス様の ことを もっと 知ろうと、彼に 会いに 行った。その時、兄弟の ペテロも いっしょに 連れて 行った。イエス様の 教えを 聞いた 後、二人は 彼について 行って、もっと 学ぼうと 決めた。(ヨハネによる 福音書の 1:29-42を 読んでね。)



ペテロと アンデレは、興奮していた。イエス様が、偉大な 教師や 預言者以上に すごい 人だ と 思ったからだ。

旧約聖書には メシアが 来られると 書かれていたので、彼らは その 到来を 心待ちに していた。バプテスマの ヨハネが、イエス様を 神の 小羊と 呼んだので、二人は、イエス様こそ、その メシアだと 確信したんだ。

イエス様が ヨハネと ヤコブを 呼ばれると、彼らも、していた ことを すぐに 止めて、イエス様について 行った！

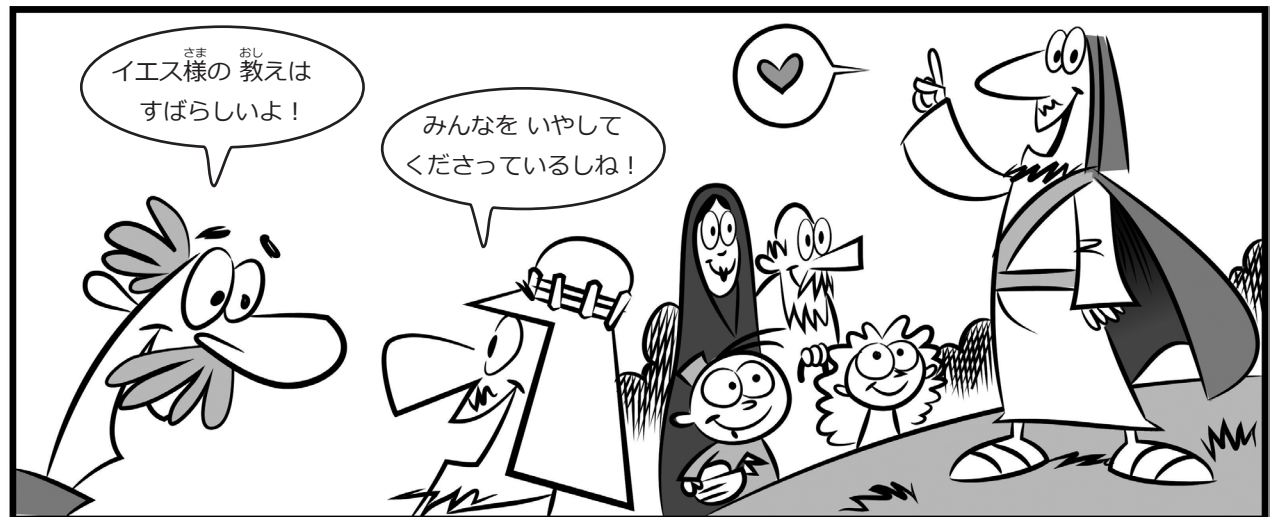




¹ヨハネによる福音書 21:25 参照

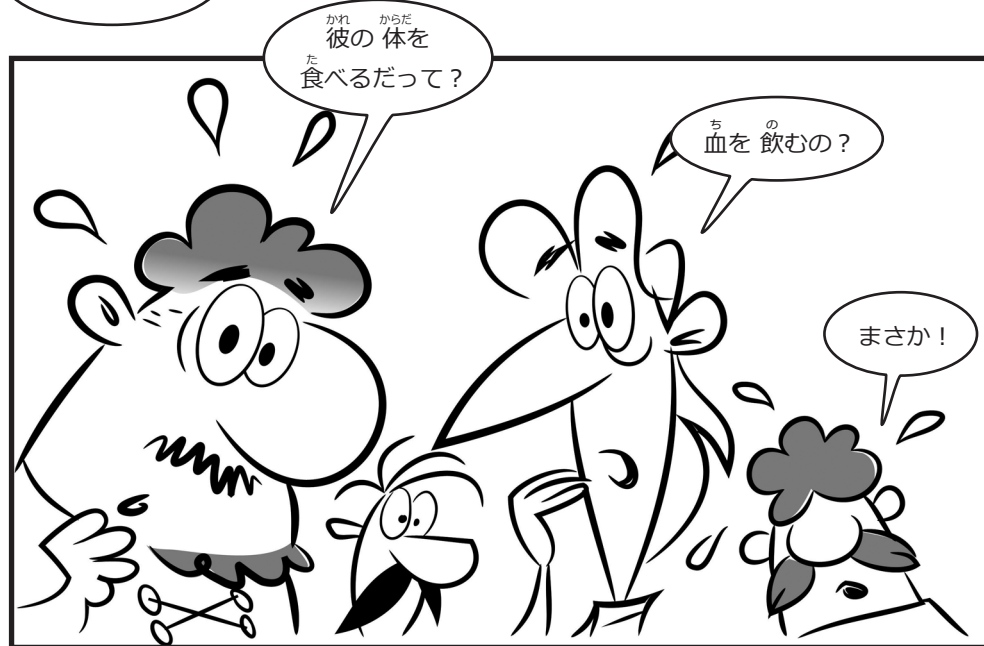
イエス様は弟子を集め続け、まもなく弟子達は12人になった。12人の名前が言えるかな？

福音書には、イエス様が رفتり弟子達に教えたりした最も大切な事柄が書かれている。だけど、ヨハネも言っているように、イエス様は、書き切れないほど多くのことをし、また教えられたんだ。



イエス様は、行く先々で、人々をいやすなどの奇跡を行ったり、旧約聖書の教えを説いたりしている内に、人々の人気者になった。みんな、イエス様が好きになったんだ。

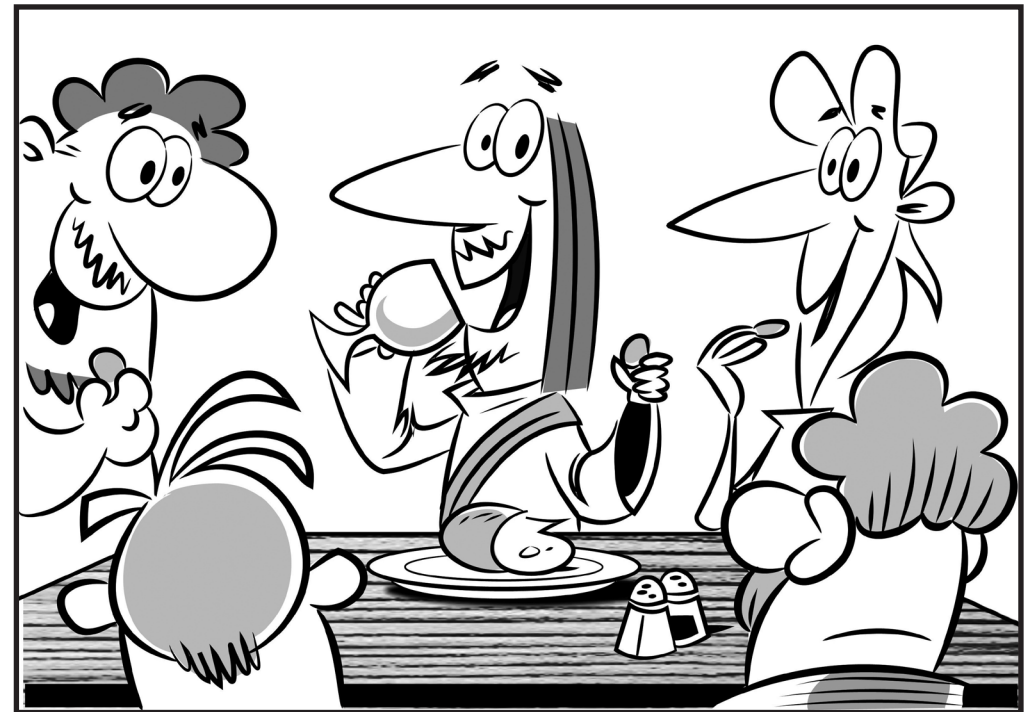
ところがある日、イエス様が「肉と血」についての話をすると・・・
(ヨハネによる福音書の 6:35-71を読んでね。)



みんな、その話を聞いて、ショックを受けた。弟子達もだよ！ イエス様は本気で自分の体を食べると言っているんだろうかと、戸惑ったんだ。

その後、イエス様の人気は落ちた。大勢の友人や信者達が去ったんだ。もう、そんな話は聞きたくないと思ったんだね。

あとになって弟子達は、イエス様が何を言おうとされていたのか、その意味が分かった。



イエス様は、私達のためにご自分の命をささげようとしていることや、彼自身が神様のみ言葉であることについて、話しておられたんだ。このことは、弟子達と最後の晩餐をしている時にも、また話に出されたよ。私達のためにくだされるイエス様の体の象徴としてパンを食べ、私達の罪のために流される彼の血の象徴であるワインを飲むようにと教えられたんだ。



イエス様が 人気者か どうかに かわらず、また、彼の 言われた ことを
すべて 理解できても できなくても、これからも ずっと イエス様について
行きたいか どうか、信者達は 一人一人、決めなくては ならなかった。

弟子達は ペテロの 言葉に 同意し、イエス様に 従い続けた。他の
人達には すでに 書かれた 旧約聖書が あったけれど、新しい 生きた
み言葉を 持っているのは、イエス様だけだったからね。神様が 望んで
おられる ことをし、神様が 望んでおられる 者になる はげみになる 言葉を
語れるのは、イエス様だけだったんだ。

のち、イエス様の教えが気に入らない人達に殺された時、それは弟子達にとって、ショックだった。それまで弟子達は、メシアであるイエス様が何をされようとしていたのか、まちがった解釈をしていたんだ。

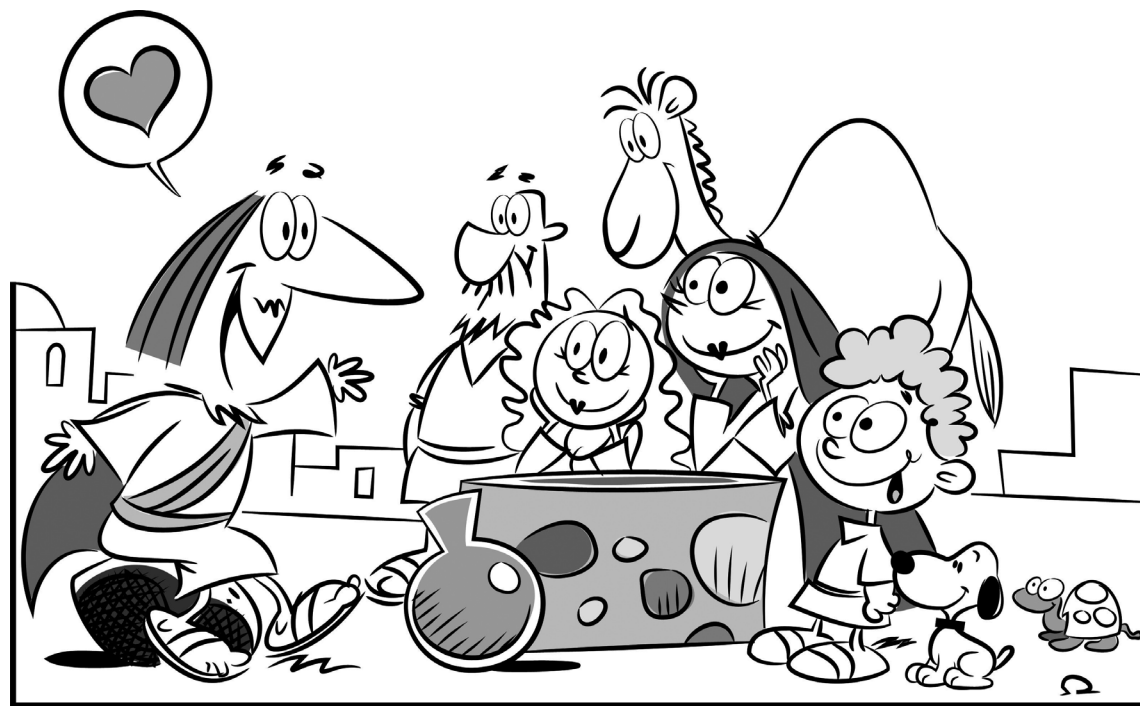
当時、ユダヤはローマ政府の支配下にあった。ローマ人は神様を信じていなかったから、ユダヤ人に、ローマの法律に従わせ、ローマ政府に税金を納めさせていた。だから弟子達は、ローマに対して反乱を起こし、その支配から逃れるのを、イエス様が助けてくださるのだと思った。イエス様が、実際に彼らの王様かつ指導者になってくれるものだと思いこんでいたんだ。

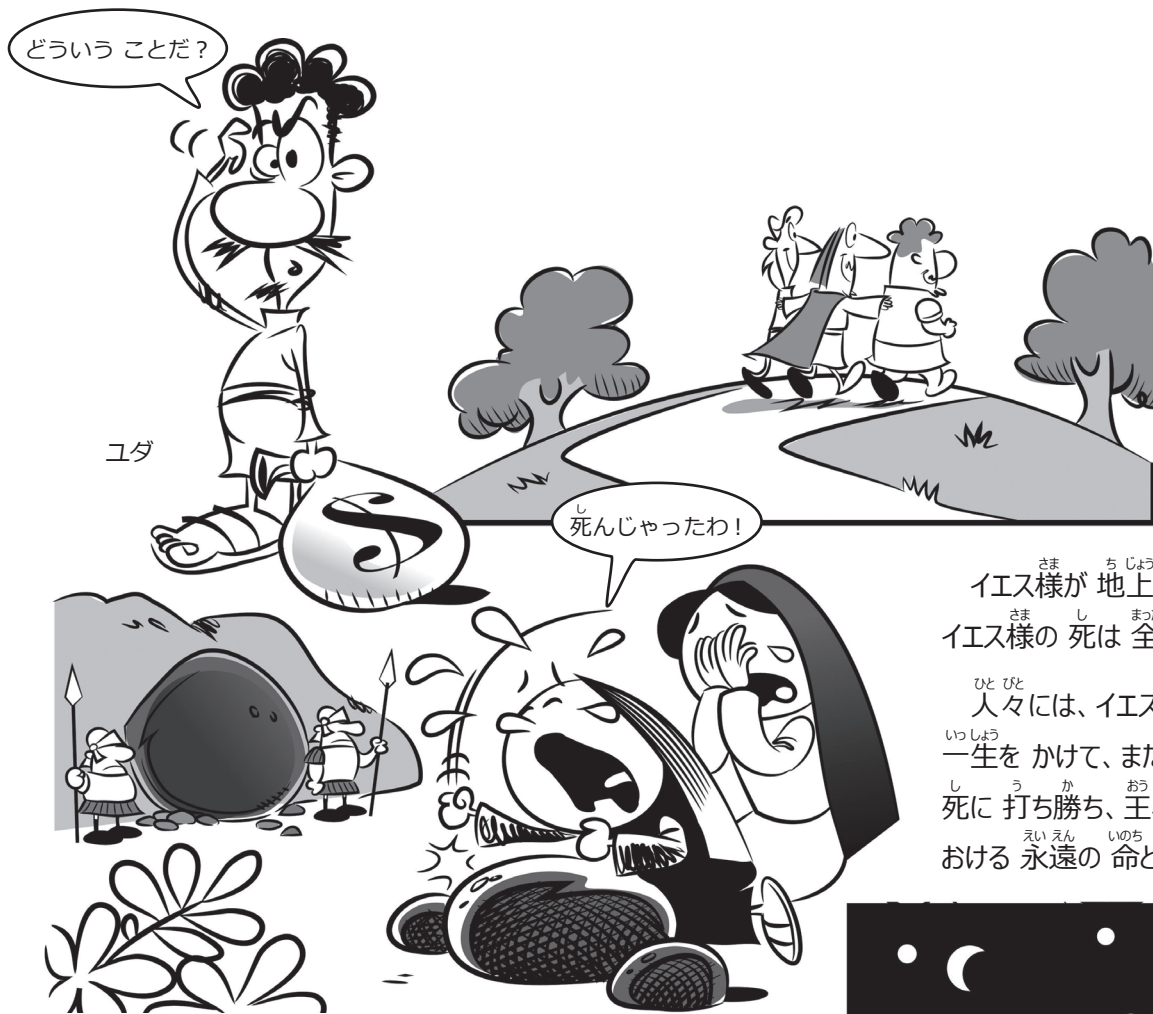


だけど、弟子達はまちがっていた！

イエス様は、政治的な権力には全く関心がなかった。ローマの代わりに国を治めることなど、興味なかったんだ。イエス様が関心を持っておられたのは、神様の愛で人々の心を変えることだった！

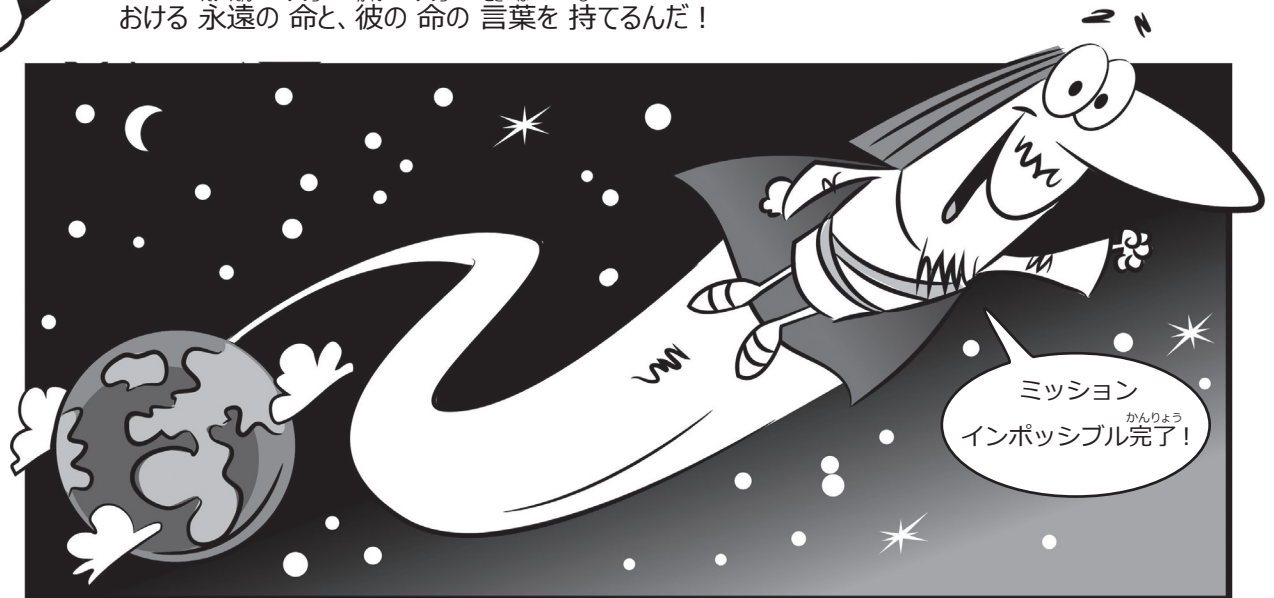
イエス様が望んでおられたのは、天国の王様、みんなの心の王様になることだった。イエス様は、こう言われた。「わたしの国は、この世のものではない！」



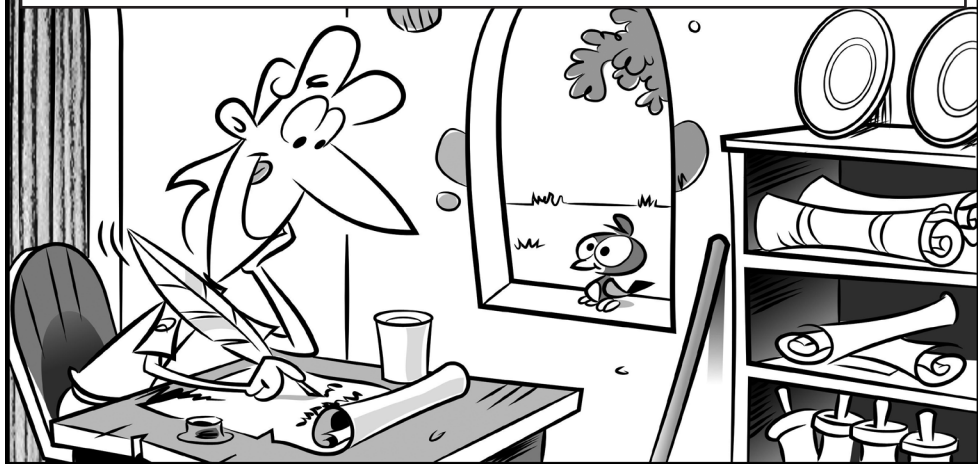


イエス様が地上の王様になるわけではないということが、弟子達には理解しがたかった。だから、イエス様の死は全くもっておどろきだったんだ。

人々には、イエス様の任務が失敗に終わったように見えたけれど、実際は成就されたのだった！一生をかけて、また死と復活を通して、イエス様が地上に來られた全目的と意義は果たされた。死に打ち勝ち、王様になられた。だから、今はイエス様を通して、わたしたちは永遠に、神様の国における永遠の命と、彼の命の言葉を持てるんだ！



ヨハネは、ヨハネによる福音書の初めに、こう書いている。「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。」（ヨハネによる福音書 1:1）
その続きは、こうだ。「そして言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。」
（ヨハネによる福音書 1:14）



わたしがあなたがたに
したとおりに、あなたがたもするように、
わたしは手本を示したのだ。4



4 口語訳聖書、ヨハネによる福音書 13:15

イエス様が地上におられた時、弟子達は実際にみ言葉と共に暮らしたということになる。イエス様がされたことは何でも、み言葉に書かれていたことの手本であり、語られたことはすべて、真実であり、み言葉だった。



イエス様が亡くなられ、聖霊が信者達に送られると、信者達はみ霊に満たされ、何もかも、彼らがイエス様について他の人達に教えるのを止めることはできなくなった！
彼らがしたことについては、使徒行伝で読んでね。

弟子達は、むち打たれ、投獄されたこともあるけれど、それでもイエス様について、またイエス様から教わったことを、人々に教え続けた。み言葉の真実は広まり続け、世界の果てにまで伝わった。そして、歴史を通して何百万人もの人生が変わったんだ！

今日 イエス様は、死と復活の 前に 初期の 弟子達と いっしょに 暮らしていた 時よりも、霊の 内では 私達に 近いんだ。物理的な 体で 弟子達と いっしょに いた 時は、毎日 毎瞬間 全員と いっしょに いることは できなかった。父と 過ごすために 一人で 山に 登った こともあるし、友人や 家族に 会いに 行った こともある。たった 一人の 人と 話す ことも あれば、休んだり 食事を したり する 必要も あった。



だけど、死から よみがえって、父の 元にもどった 後は、再び、遍在できるようになった。遍在とは、同時に どこにでも いることができるという 意味だよ。だから イエス様は、父や 他の だれかと 話していても、君とも いっしょに いるんだ。



でしたち ちじょう とき さま とき わたしたち さま
 弟子達が、地上におられた時のイエス様と いっしょにいた 時よりも、私達のほうが、もっと イエス様と
 いっしょに いられるばかりか、私達には、聖書という 書かれた み言葉もあるし、子供達が 聖書物語を
 たの まな よ もの
 楽しく 学べる 読み物も、たくさん ある。

さま ことば さま あい きょう さま
 イエス様は み言葉で あり、イエス様は 愛だ。今日、イエス様を
 し 知って、ついて行こう。かみさま ことば よ いの さま
 神様の み言葉を 読み、祈り、イエス様の
 あい 愛と やさしさに み て ほん なら
 満ちた 手本に 習おう。

